

挨拶の見本は 社長が示す



え・古屋智子

なかなか業績が向上かない。いわゆる「頭打ち」で、今

後伸びていく兆しがない。経営状態は安定していても、将来への漠然とした不安を持っている。

このような時、どこに活路を見いだすのか。その道は、小さなことにあります。当たり前のような小さなことをコツコツと続けて、実践を積み重ねていくことが大切

です。その小さなこととは、例えば、「真心を込めて先手の挨拶をする」「呼ばれたら間髪入れずに『ハイ』と返事をする」「使った物はきちんと後始末をする」といったようなことです。一見、当たり前前

に思えることを徹底して実践することで、やがて大きな力を発揮するのです。ある地方で運送業を営んでいるEさんは、従業員の挨拶の仕方が気になって仕方ありません。たとえば、「おはようございます」は「おざーす!」、「ありがとうござ

いました」は「あざしたー!」といった具合です。

体力が物を言う仕事柄、採用する従業員は、いわゆる体育会系の部活動をしていた人がほとんどです。「部活の時はそれで良いが、もう社会人なんだから、挨拶の仕方を考えなさい」といくら注意しても、長年の挨拶の習慣はなかなか改まりません。

〈元気があるから、まあいいか〉と、心の中で妥協していたEさんでした。

ある日の研修会で「挨拶の実践で会社が変わった」という社長の体験談を聞く機会がありました。〈たかが挨拶くらいで…〉と思いつつも、Eさんは、その体験談に、どこか引き込まれるものを感じました。

研修会が終わった後、講師に従業員の挨拶の仕方について相談したEさん。その際、「Eさん自身はどのような挨拶をしていますか?」と問われ、ハッと我が身を振り返りました。朝、従業員が自分

分に挨拶してくると、「オース!」と返していたのです。

「挨拶のポイントは、真心を込めて、先手で挨拶をすることです。

社長から先に、正しい挨拶のお手本を示してください」と、講師にアドバイスを受けました。

翌日、Eさんは、照れくさい思いを振り切るように、「おはようございませす!」と元気に挨拶しました。従業員は最初、驚いた様子でしたが、時の経過につれて、「おはようございませす!」「ありがとうございませす!」と、爽やかな挨拶が返ってくるようになりました。

やがて半年が過ぎる頃には、その従業員の挨拶が、評判を呼ぶようになりました。「荷物を頼むならE運送に」と声がかかるようになります。以前と比べて、配送の依頼が二十五パーセントほど増えたとい

います。その変化に、Eさんは「たかが挨拶、されど挨拶。毎日の小さな積み重ねが、大きな変化をもたらすのですね」と、挨拶の威力を痛感しています。

純粹倫理の学びは、頭で理解して終わりではなく、実践するところに意義があるのです。